

本校の教育活動が茨城新聞で紹介されました。

7月5日(金)の茨城新聞に、『石下紫峰高の外国籍生徒、弁当で「お国じまん」』というタイトルで掲載されました。

本校では令和4年度の入学者選抜から、外国人特例選抜を40名の枠で外国籍生徒を募集しています。今年度で3年目を迎え、16カ国、120余名の外国籍生徒が在籍しています。日本人を含め、国籍、言語、宗教などは一人ひとりが持つ「個性」としてお互いを認め合い、助け合うことで多文化が共生できる学校を目指しています。

今回は茨城新聞の「茨城こども新聞」のページに、本校の外国籍生徒が自国の弁当を「お国じまん」を紹介する記事が連載されます。初回は7月19日(金)にスタートです。本校の生徒の工夫を凝らした弁当自慢を楽しみにしていただきたいと思います。

茨城新聞 第三種郵便物認可 A版 こども (6)



19日から新連載

弁当で「お国じまん」

石下紫峰高の外国籍生徒

茨城県立石下紫峰高校(常総市、石塚博幸校長)に通う外国籍の生徒が、きょうのお弁当を紹介しながら母国の習慣や文化をリポート、「お国じまん」する新連載が今月から、茨城こども新聞金曜版で始まります。フィリピン、ブラジル、パキスタンなど16カ国の生徒が在籍する石下紫峰高校は、全校生徒の4分の1が外国籍。お昼休みともなれば、みんなでお弁当を楽しむために用意された教室は、たくさんの方々の笑顔に包まれます。まさに多文化共生を象徴する空間です。

新連載は第3週に掲載します。19日のスタートを前に学校を訪ねました。連載を監修してくれるのは、本年度、茨城県が新設した外国人生徒支援相談員を務める石下紫峰高校の佐藤紘司教諭です。

石下紫峰高校は国語・数学・英語3教科の試験と個人面接で入学できる外国人特例選抜枠を2022年度、「3人」から「40人」に拡大。外国籍生徒の支援を充実させました。「常総市は外国人比率が茨城県内で最も高い地域。外国籍の生徒は以前から在籍していましたが、年々、入学希望者が増え、通学エリアも広がっています」と佐藤教諭。

今年4月、使われる機会がなくなっていた視聴覚室を、お昼休みに開放することにしました。佐藤教諭は「『居心地がいい』と、日本人を含む40人から50人の生徒が集まるように。年次や国籍、宗教を超えたコミュニケーションも生まれています」と話します。

お弁当を食べた後、お祈りをささげるイスラム教の生徒のため、視聴覚室隣の準備室にじゅうたんを敷き、お祈りの部屋も整備しました。

日本語が上手な生徒もいれば、そうではない生徒もいます。学校には通訳や生活をサポートする「外国人生徒支援コーディネーター」や日本語指導支援員が配置されています。多くの授業では、日本語が苦手な生徒向けの少人数授業や、複数の教員で指導する「チームティーチング」が行われています。佐藤教諭は「日本で活躍し、社会貢献できるような人材が巣立ってほしい」と期待しています。(この記事は全ての漢字にルビを振っています)

16カ国 習慣や文化を紹介

国を越えて、お昼の時間を楽しむ生徒たち＝県立石下紫峰高